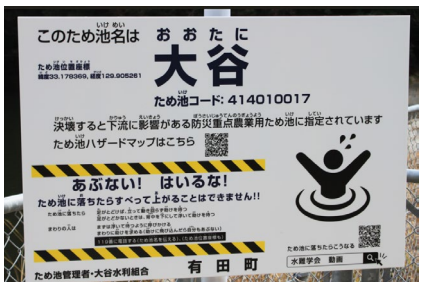
番号	117	大谷溜池		
所在地		有田町中樽２丁目		
災害別		昭和２３年（１９４８）　水害		
目的別		その他	建立年	元禄１０年
特記事項		堰堤脇の大岩に昭和３６年（１９６１）及び昭和４２年（１９６７）の災害復旧記念の陶板や石碑が設置されている。		

有田町の猿川渓谷上流にある大谷溜池。元禄１０年（１６９７年）に築造されたと伝わっている。溜池の水は、農業用水や近年では水道用水として利用されてきた。また、このほかにも、かつては陶石を砕く唐臼にも利用され、有田の窯業をささえていた。地元ではウータン溜池と呼ばれて親しまれている。この溜池の水は、猿川渓谷から町のほぼ中心部に流れ、白川川に合流する。

今では山間に静かに水をたたえる大谷溜池だが、昭和２３年（１９４８）９月１１日から１２日にかけての大雨では、この溜池が決壊し、猿川下流域にあった二十数戸の民家を押し流し大きな被害をもたらした。「有田町史（通史編）」（昭和 61 年 12 月 25 日　有田町発行）には、当時の模様を目撃者の話として、「午前零時すぎにおおかた窯を焚き終わったころ川は満水状態であったが、突然川の水がごろごろと大きな音をたてはじめた。恐ろしい気がして線路（佐世保線）の方へ一目散に走っていった。する



と、そのあと鉄砲水が窯を直撃して窯はこわれ、窯から火を噴き出して屋根が燃え始めた。（中略）人が流されるのも見えたので一人は助け上げたが、後は手を出しようもなかった」と記されている。この水害により、旧有田町では、死者二十四名という大きな被害を受けたが、大谷溜池の決壊がその大きな原因であった。

「有田町史」によれば、復旧工事は大谷溜池の堤防工事と有田川の河川変更が大きな事業で、このうち大谷溜池の復旧工事をめぐっては、江戸時代からの農業用水の水利権が絡んで東有田町、曲川村と有田町との間に意見の対立があったというが、結局、農業用水としての重要性が認められ、東有田町が施行主体となり、昭和２４年８月に完成したと記されている。その復旧記念碑を探したが見当たらなかった。ただ、堰堤の入口にある大岩には、昭和３６年と昭和４２年の災害復旧事業の陶板や石碑が設置されていた。いずれも大雨による災害が発生した年だが、大谷溜池の被害等の資料を見つけることが出来なかった。

また、岩の上には龍王の祠が祀ってあり、昭和３５年１０月再建と刻んであるが、いつごろから祀られていたのか、また、再建された経緯なども不明。

国土地理院電子国土 Web